
館ノ召使達

syon

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

館ノ召使達

【Nコード】

N2955N

【作者名】

syou

【あらすじ】

——昔々、館のご主人様と召使いがいました。

『無言ダンテ杯』参加作品

とある館に、召使いが一人やってきました。

ご主人様はその召使いに、やってきて早々こう言いました。

「飯を作れ」

召使いはお辞儀をして、キッチンへと向かいました。

召使いは、冷蔵庫から適当な食材を取り出して、包丁で切っています。

ジャガイモ、にんじん、たまねぎ、鶏肉。各々を食べやすいサイズに切り分けていきます。

そしてそれらの具を鍋に入れ炒めます。

ここまでは、召使いにとって自信のある作業でした。

実は召使いは、味見が出来ないのです。だから召使いは、レシピ通りに調味料を入れることしか出来ないのです。

お玉で鍋の中をかき混ぜます。レシピだと、どうやらこれでクリームシチューは完成のようです。

召使いはお皿にシチューを移し、ブレッドとともにご主人様の所へ持って行きます。

「おお。クリームシチューか」

ご主人様は、舌なめずりをしながらそう言いました。

ご主人様はスプーン一口分のシチューを口に運びます。

口に含むと、ご主人様は召使いのことをいきなり睨みました。

「薄い」

ご主人様はいきなり立ち上がり、召使いのお腹を蹴り飛ばしました。

「俺は、もっと味が濃いのが好きなんだ」

召使いは困ります。召使いは味見が出来ないのです。

召使いが困っていると、ご主人様はいきなり力強く机を叩きました。

「もうお前は料理を作らなくていい。出前を頼め」

ご主人様は怒って自室へ戻っていつてしまいました。

「食事が作れないなら、掃除してろ」

翌朝、ご主人様が召使いにそう言いました。

召使いはモップを持ち、館を掃除します。玄関、各部屋、トイレ、キッチン。丁寧に丁寧に、召使いは掃除していきます。

「おい」

客間を掃除していたときです。ご主人様が召使いのことを呼びました。

「お前、俺の部屋を掃除したか？」

召使いは頷きます。

昨日ご主人様を怒らせたので、召使いはそれはそれは丁寧にご主人様の部屋を掃除していました。

「机の上にあった書類、お前捨てたな？」

召使いは首を横に振ります。

召使いが机の上を掃除しようとしたときには、机には何も乗っていませんでした。

「しらばっくてんじゃねえぞ！」

召使いは蹴られて、客間の机に身体の一部を打ってしまいます。

「お前しか入ってないんだよ！ あの部屋には！」

召使いは、ふらふらになりながら立ち上がり、頭を下げます。

「謝って済むと思ってるのか！」

また召使いは蹴られます。そしてまた立ち上がり、頭を下げます。

ご主人様は舌打ちをして「探し出せ。何としてでも」と言い去っていきました。

召使いは、ゴミ箱の中を探すことにしました。

一つずつゴミを取り出していきます。ですが、書類とは関係の無いものばかりが出てきます。

そしてついに、ゴミ箱から全てのゴミを取り出してしまいました。

結局、書類はありませんでした。

「おい、掃除しろって言ってたのに、何で汚してんだ」

ご主人様がそう言います。まるで、召使いが勝手に汚したかのよう
うに。

「風呂に入りたい。掃除しろ」

召使いは困惑します。さっきのご主人様の命令を聞くか、今のご主人様の命令を聞くか。

すると、ご主人様は携帯電話を手に取り、どこかへ電話をかけます。

「ああ、俺だ。書類なら見つかった。だから、二時間後に会議室に集合だ。わかったな？」

ご主人様の電話の内容によると、どうやら書類は見つかったようです。召使いはご主人様の新しい命令どおり風呂場の掃除を始めます。

モップに洗剤をつけて、タイルの汚れを落とします。ごしごし、ごしごしと力強くモップでタイルを掃除します。

次は、タイルの汚れを洗い流します。蛇口を捻って、水を出します。

その時でした。

洗剤で召使いの足が滑って転んでしまいます。そして、流れ出てきた水を全身に浴びてしまいました。

「うっせえぞ。何をやってんだ」

お風呂場でとても大きい音がしたので、ご主人様が様子を見に来ました。

するとそこには、水を浴びて倒れている召使いが横たわっていました。

ご主人様は、それを見て舌打ちをします。

「まだ二日しか使ってないぞ」

ご主人様は水を止めて、水を全身に浴びた召使いの首の部分を持って、とある部屋に持って行きます。

『物置部屋』

ご主人様は、その扉を開けます。

部屋の中には、動かない召使いたちが大量に捨てられていました。そして、ご主人様は召使いをその部屋の中へ投げ捨てます。

ご主人様は扉を閉めて、携帯電話を取り出し電話をかけます。

「もしもし。ああ、俺だよ。今度は水がかかって故障したんだが。

ちゃんと防水仕様にしておいてくれ。それと、新しいのを頼む。あ、あと、料理もちゃんと作れるやつにしてくれ」

ご主人様は一方的に相手にそう言って、電話を切りました。

ご主人様は、物置部屋を冷たい目で見ながらこう言いました。

「不良品のロボットか、今回も」

そう。召使いは、ロボットだったのです。

- Hall master , emotionless
servants .end -

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2955n/>

館ノ召使達

2011年10月6日17時10分発行